

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は足踏み状態となっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

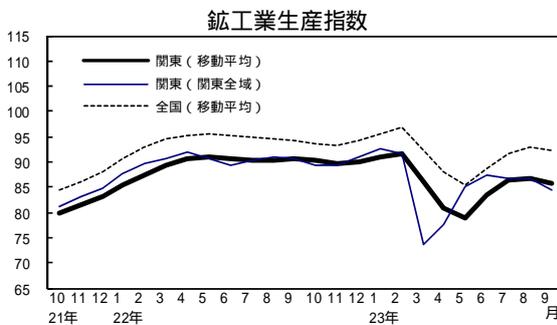
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 23 年 8 月)	今回 (平成 23 年 11 月)	
景況判断	東日本大震災の影響が残るものの、持ち直し	足踏み状態	
鉱工業生産	持ち直し	おおむね横ばい	
個人消費	持ち直し	おおむね横ばい	
住宅建設	大幅に減少	増加	
雇用情勢	東日本大震災の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直しの動き	持ち直しの動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

輸送機械は、部品の調達不足が解消したことから大きく増加している。一般機械は、8月に中国向けの数値制御ロボットが減少したことや、世界的な半導体市況の停滞により半導体製造装置が低下したことから横ばいとなっている。電気機械は電気冷蔵庫、医用X線装置、セパレート形エアコン等が減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	15.2	10.7	23.5	26.8	19.4
化学	13.4	5.9			
一般機械	13.2	6.3	0.1	0.7	6.5
電気機械	7.8	0.6	0.2	2.3	6.6
食料品・たばこ	7.1	2.9			
鉱工業	100.0	3.0	3.1	4.4	3.7

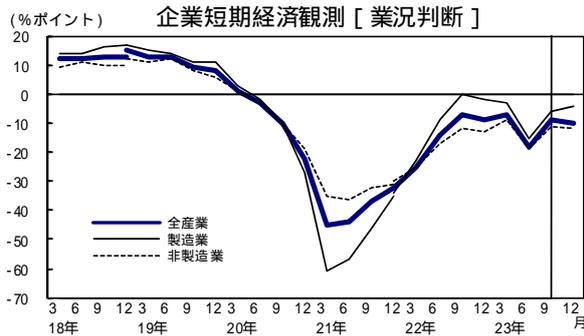
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7~9月期は速報値。化学、食料品・たばこは速報値では公表されていない。

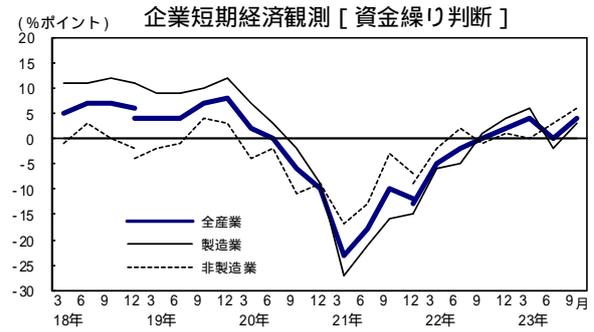
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。

2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

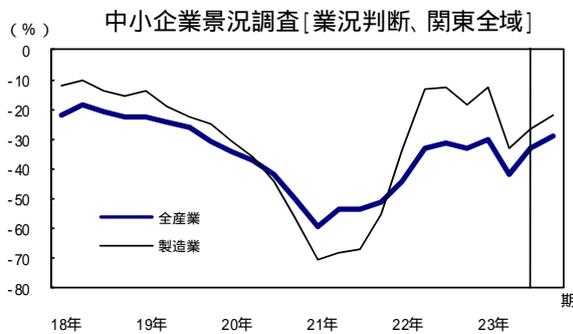
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年12月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。
関東全域(新潟県を含む)。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

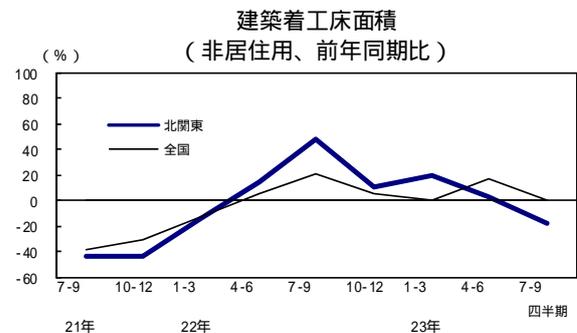
「東日本大震災後、少しずつ回復してきていたが、円高のせいか思ったより売上が伸びていない事業所が多い(社会保険労務士)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	30.7	25.0(2.4)
製造業	21.8	42.3(0.7)
非製造業	60.2	4.7(6.3)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。
調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

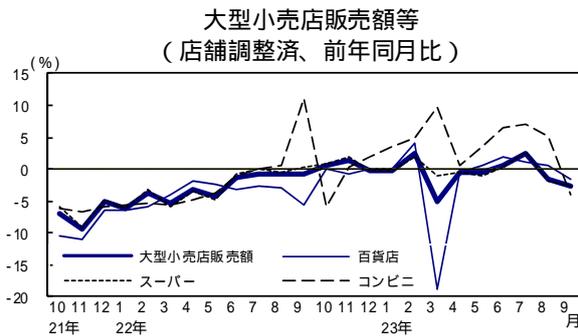
大型小売店販売額は、前年同期比で0.5%減、前期比で0.1%増となった。

百貨店は、7月は、気温が高かった前半にクールビズ関連商品が好調であったことと、高額商品に動きがあったことから3か月連続で前年を上回った。8月は、7月に引き続き高額商品が堅調であったことから4か月連続で前年を上回った。9月は、台風など天候不順の影響により入店客数が減少したことから、5か月ぶりに前年を下回った。

スーパーは、飲料等の売上が、昨年の猛暑により大幅増となっていた反動により低迷したことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「行楽、バーベキュー商材、運動会関連の動きがようやく既存店前年同月比102%と前年並みに推移し、東日本大震災による心理的自粛ムードは多少解消されてきている(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	0.5	1.2	0.1	0.5
百貨店(*1)	0.2	5.6	0.6	0.1
スーパー(*1)	0.8	0.1	0.3	0.6
大型小売店(*2)	0.2	0.7	0.9	1.9
(季節調整値)(*3)	(0.6)	(3.1)	(2.1)	(0.1)
乗用車(*4)	28.2	26.1	35.9	21.8
(季節調整値)(*4)	(33.6)	(4.2)	(16.3)	(31.9)

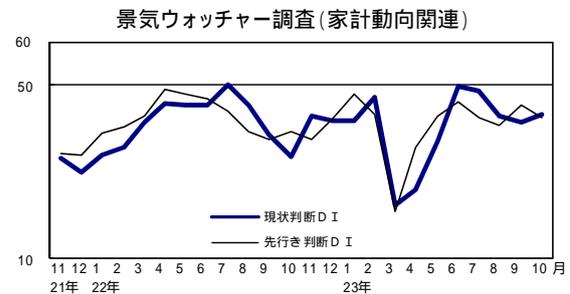
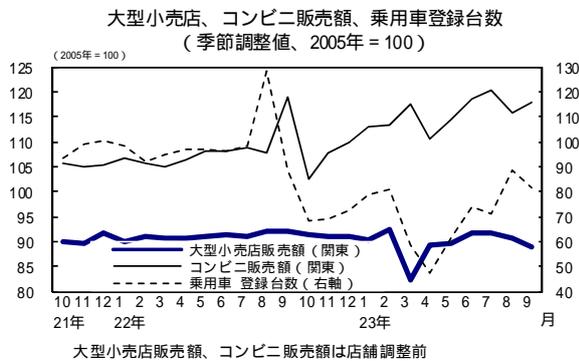
(備考) 1. 北関東地域、店舗調整済、前年同期比(%)、7-9月は速報値

2. 北関東地域、店舗調整前、前年同期比(%)、7-9月は速報値

3. 関東全域、店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

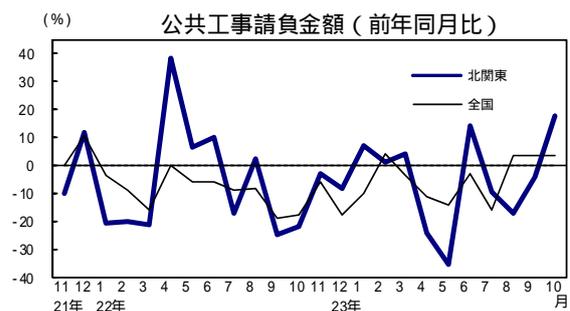
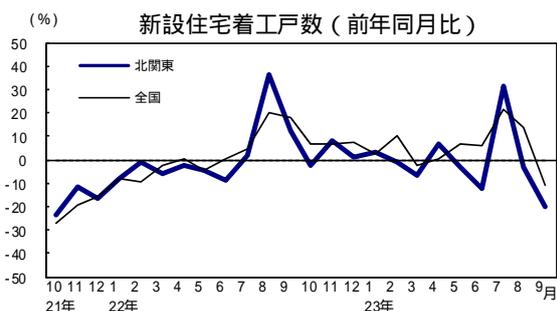
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

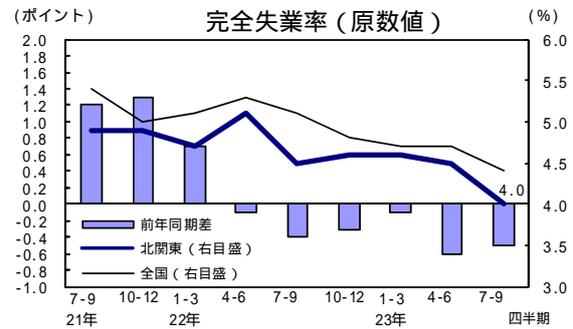
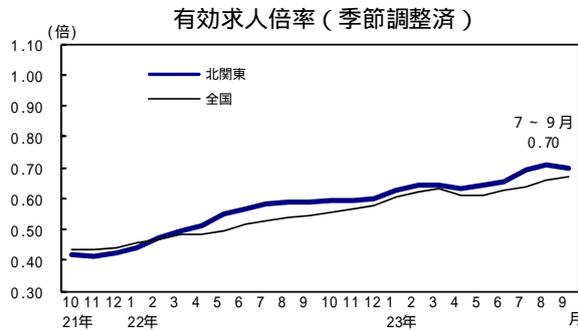


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

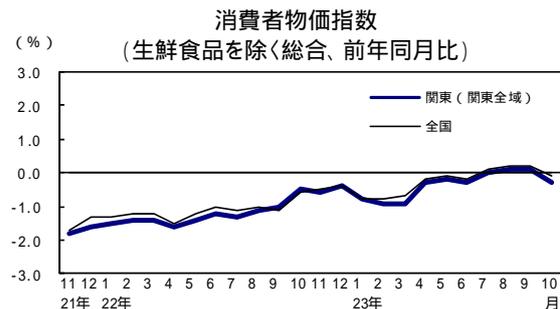
「求職者数が高止まりして減らないため変わらない(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月	23年10月
倒産件数	170	169	185	146	51
(前年比)	21.3	18.8	5.1	18.9	17.7
負債総額	535	429	762	4,701	88
(前年比)	7.5	37.8	83.7	365.1	4.1



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・夏の観光シーズンの来客数は好調に推移したが、9月から伸び悩んでいる。良いとも悪いとも言えない(観光型ホテル)。

<先行き>

・生産拠点であるタイの洪水被害で、既にデジタルカメラなどの入荷が遅れている(家電量販店)。

